



「大好きな気持ちが、やる気を育む」

1月末に保護者アンケートのお願いをしました。これから集計をしていきますが、コロナウイルスの中での保育を振り返り、たくさんのメッセージを頂きましたので、一部紹介いたします。

“コロナ禍においても保育を続けてもらったり、このような中でも行事をしてもらってありがたい”“行事の縮小は少し寂しいが、今年度は仕方ない。むしろ、感染対策を取りながら子どもたちやその家族が楽しめるように考えてもらっている”“限られた人員、時間の中で毎日の感染対策や消毒は、大変な労力だと思う。おかげで子どもが元気に過ごしている”などの思いに胸が熱くなりました。中には、気づきも寄せていただいていますので、年度末に発行する「ひのでだより」にて公表させていただきます。ありがとうございました。

広島市では、コロナウイルス感染者数が昨年末に激増しましたが、今年に入り減少傾向にあります。まだまだ緊張感の中にありますので、引き続き引き締めて感染拡大防止策と「楽しい保育」を並行していきたいと思っています。

さて先日は、このようなコロナ禍の中ではありませんが、生活発表会を行いました。例年は、3歳から5歳まで、異年齢でのプログラム内容で、全学年の様子を保護者の皆様に見て頂いていましたが、今年度は感染防止のために人数を制限して学年ごとの開催としました。発表会が出来ますようにと、子どもたちもマスクの着用や手指消毒を頑張り、無事に開催することができました。

年少あか組さんは初めての発表会。舞台の上に立っているだけでも感動的なのに、元気いっぱい大きな声で自分をアピールしていました。大好きなお家の人に見てもらおうことが嬉しいけど、照れくさい感じがとても可愛かったですね。

年中きい組さんは、昨年から憧れていた鍵盤ハーモニカに挑戦。歌声、鍵盤ハーモニカの音、遊戯も劇のセリフも、お友だちと合わせると素敵だとわかってきたのでしょう。相手がいることを意識していることが伝わってきましたね。

そして、年長しろ組さんには、最後の発表会。みんなで一つのプログラムを成功させよう、見ている人たちを感動させようと、チーム一丸になっていました。ブラスバンドさながらのラテン楽器を使った演奏は、思わず体が動き出すほどの楽しさでした。リハーサルとは違うことが起こっても、臨機応変に助け合い、友だちを思いやっている子どもたちの姿に感動の連続でした。

3歳から5歳までを通して見てみると、それぞれの年齢の発達がよくわかりました。コロナで生活が変わったこの一年の中でも、元気にたくましく、さまざまなことを感じながら成長してくれたのだなど、嬉しくて、とても素敵な時間になりました。いっぱいお家の人に褒めてもらって、さらに自信をつけた子どもたちのこれからが楽しみです。

乳児園の保護者の皆様にも、お仕事の都合などをつけていただき、職員みんなで子どもたちの成長を見守ることが出来ましたことに感謝申し上げます。

子どもは、どうしてこんなにやる気を見せ、最後まで粘り強くやり通す力をつけてきたのでしょうか。いつも園だよりでお伝えしていますが、今の幼児クラスの子どもの力の原点は、やはり乳児期にあります。求めているだけ抱っこや相手をして丁寧に関わっていく日々の中で、自分は愛されているという大人への信頼感・安心感が生まれます。その安心感が基盤となり、さまざまな事にチャレンジしていく力や、人に対する優しい心を育てていくのです。

先日、1歳児の子どもが、朝、お友だちが保育室に入ってくると、嬉しそうに車の絵本を「どうぞ。」と言いながら渡してあげている場面を見かけました。こんな気持ちが芽生えているんだな～と見ていると、担任が、「この絵本、〇くんが大好きな絵本なんです。知ってるんですね。」と教えてくれました。不安と緊張が続く生活の中ですが、“笑顔がいっぱいな所が日出らしい”とアンケートの中にもありました。明るく一緒に乗り越え、今こそ、愛いっぱい大切な子どもたちを育てていきましょう。

園長

## ぽかぽかドキュメンテーション 2月



「お父さん・お母さん大好き♡」

現在コロナ感染予防のために、夕方のお迎えの込み合う時間帯の受け渡しは、玄関ホールで行っていますが、夕方の時間の中で、ほほえましく思うことがたくさんあります。まず一つは、異年齢の様子です。お迎えの時間に合わせて、0.1.2歳児の異年齢グループで過ごしています。お互いに小さい子を意識したり、大きい子を観察したりして遊んでいるようです。小さい子どもたちは、いつかは自分も…と思っているのでしょう。二つ目は、大好きなお家の人がお迎えに来てくれた時の子どもたちの姿です。玄関の方を気にしながらお父さんお母さんのお迎えを心待ちにしている子どもたちは、「〇〇ちゃ〜ん」と名前を呼ばれると、赤ちゃんたちも自分の身体より大きいくらいの荷物を引っ張って入り口まで行こうとしたり、1歳児さんはジャンパーに手を通し、自分でファスナーを上げようとチャレンジしたりと本当にうれしそうです。子どもたちにとって大好きな人は、やはりお父さんお母さんだな、乳児期に育てたい“人が好きになる”心が育っているなと思っています。

夕方のほほえましい姿…



「お母さんだ！」



らいおん組さんと同じの作ってみよ〜

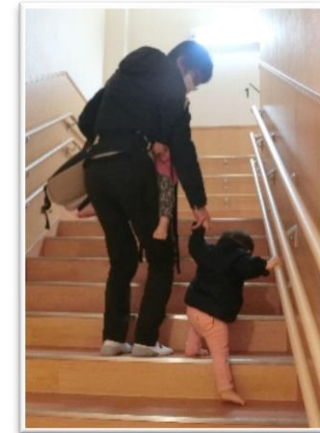
じぶんでやるの！



お迎え  
うれしいわ

なかなかうまくいかなくても、じっと見守るおかあさん。

朝のほっこりは…



パパも大奮闘です。手指消毒や検温をして二人の子どもたちを抱っこ階段を自分で上がりた気持ちにつきあって、手をつないで二階まで。気持ちに寄り添う姿にほっこりします。

子どもたちは、大好きなお父さんお母さんのそばで成長していきます。幼稚園の生活発表会の生きいきとした姿を見ながら、お父さんお母さんに見てほしい気持ちがやる気の原動力であり、頑張る姿をほめてもらうことが次のやる気へと向かう力になるのだと感じ、乳児の間のあたたかいほっこりとした何気ない積み重ねが大事なんだと感じています。これからも一緒に楽しい子育てしましょうね。

乳児園主任